

水みず 到いたりて 渠ぎよ 成なる

松枝 勝一(高6回)

福祈願一杓に込む初茶湯  
受驗絵馬ひしめきあつて春を待つ  
兎の息を余し離るるしゃぼん玉  
霾りて鴉鳴かねど駱駝鳴く  
雨音に命ひしめく種物屋  
葉隠れて河童にあらず青蛙  
青林檎噴煙うすき淺間山  
露草に水の妖精宿りけり  
水鱧みずほもや雨美しき竹の宿  
暁闇の岬灯りて鷹渡る  
佐渡眺め無花果食ふや五合庵  
新酒を醸す杜氏の祈り唄  
大根を抜きたる土の匂ひかな

若葉風 — 神戸へと —

山崎美恵子(高21回)

列車より心走れり麦の秋  
若葉風「新神戸」なる響きかな  
万緑を食み出すロープウェイかな  
北野へとジャズストリート五月来る  
風見鶏の心知らずや夏館  
夏衣風の形に裾揺れて  
その昔ここニユータウン花は葉に  
ゆるやかに和服の人や夏きぎす  
震災を忘れし街の夕薄暑  
路地溢るいかなご炊きの匂ひかな  
生ビール今宵揃ひて乙女なり  
戻る日の車窓六甲山緑雨  
手のひらに青き残像螢の夜

漢詩

芳野 道子(高15回)

懷<sup>ニ</sup>上越高田春<sup>一</sup>

春心季節望郷情  
満朶長堤映水櫻  
残雪妙高山嶺遠  
未忘良舌黑鶉聲

書き下し文

春心の季節望郷の情

満朶<sup>まんだ</sup>の長堤水に映ずる桜

残雪の妙高山嶺遠し

未だ忘れず良舌<sup>りょうせつ</sup>の黒鶉<sup>くろつぐみ</sup>の声

視<sup>ニ</sup>電視「天地人」<sup>一</sup>

甲州越後互相攻  
春日山頭歲月空  
第一義方千古訓  
凝視探里電視中

書き下し文

甲州越後互に相攻む

春日の山頭は歲月空し

第一義は方に千古の訓

視を凝らし里を探す電視の中